

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>1 地域基幹品目の生産振興と農家の所得向上</b></p> <p>《須崎市、中土佐町、津野町》</p> <p>まとまりのある園芸産地づくりを推進するなどして、収量・品質の向上に努める。同時に、消費者からの安全・安心の要望に応えるために環境保全型農業を推進し、産地のこだわりを「見える化」した販売に対応してエコシステム栽培品目の増加に取り組むことなどにより、販売額の維持・増加を目指す。あわせて、重油価格等の資材高騰に対応するなどして経営内容の改善を進めることにより農家の所得向上に取り組む、産地の安定的な発展を目指す。</p> <p>【JA土佐くろしお、JA四万十】</p>	<p>○学び教養会会場：栽培技術や経営分析診断の指導等により、主幹品目の収量・品質が向上して販売額が高まった。特にミョウガでは平成23園芸年度の販売額が52.9億円となった。</p> <p>○IPM技術の取組：主要11品目で取り組んでおり、シントウの現地実証圃の取組の成功により、天敵の導入が急速に進み農薬使用量の低減につながった。</p> <p>○省エネ対策：多層被覆や変温管理、ヒートポンプの導入などにより年々進んでいる。</p> <p>○くろしお版GAPの推進：流通・販売上の対策として、主要11品目で取り組んだ。キュウリでは部会全体でエコシステム栽培の取組が始まった。</p> <p>◆個々の農家の所得の安定化・新規就農者の増加</p> <p>◆ミョウガの市場開拓、販路開拓。</p>	<p>・JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会の開催(第1回委員会、各PT会)</p> <p>・各PT会における活動の進捗管理</p> <p>収量・品質向上対策：現地検討会・目慣らし会等(16回開催)</p> <p>栽培現地実証圃の調査・検討(7ヶ所)</p> <p>生産コスト低減対策：重油代替加温機導入圃場実態把握(12ヶ所)</p> <p>環境保全型農業の推進：IPM技術実証圃の調査・検討(7ヶ所)</p> <p>流通・販売上の対策：業務筋への売り込み強化(関東、関西) 県外への消費宣伝(6回)</p>
<p><b>2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立</b></p> <p>《橋原町、津野町》</p> <p>園芸基幹品目において、平坦地域と遜色ない所得を得る生産規模の確保、栽培技術向上、有利販売の取組を推進する。</p> <p>また、安定的な所得を得る複合経営(農業、林業、直販所出荷、農林産物加工を含む)を確立し、地域内への波及を図る。</p> <p>【津野山農業協同組合】</p>	<p>○農産物価格の低迷と農家数の減少(特に基幹4品目生産農家は過去3年間で35%減)により、農産物販売額は低下したが、複合経営による中山間地域での所得確保のモデル的農家を育成し、所得向上の可能性が見えてきた。</p> <p>○農協間連携によるユズの導入が進み、中山間地域での新たな産地化、所得の確保の可能性が出てきた。</p> <p>◆平坦地なみの所得を上げる農家の育成</p> <p>◆中山間地域の園芸産地の維持</p>	<p>・担い手の育成</p> <p>新規就農者研修施設「営農みらい塾」の円滑な運営への支援</p> <p>・栽培指導</p> <p>現地検討会3回、実証圃設置5カ所、個別巡回指導等29回</p>
<p><b>3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>農業の基幹品目及び推進品目等の維持発展のために、農業者と関係機関が一体となって、収量・品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進などに取り組む。</p> <p>【JA四万十】</p>	<p>○栽培技術の向上により目標収量が達成されつつある。</p> <p>目標収量達成農家率(基幹4品目)</p> <p>H21:48%、H22:40%、H23:46%</p> <p>○JA部会でのエコシステム認証出荷が始まった。</p> <p>H21:ミョウガ、ピーマン、キュウリ、H22:露地ショウガ</p> <p>○関係機関と連携した取組により新規就農者が確保された。</p> <p>H21:19名、H22:9名、H23:11名(H24.3月現在)</p> <p>○関係機関と連携した取組により経営体の強化が図られつつある。</p> <p>レンタルハウスによる規模拡大他 H23:9件(ニラ4件87a、ミョウガ4件44a 他1件)</p> <p>◆重油などの高騰による農家所得の減少が懸念される(ミョウガ、ピーマン他)</p> <p>◆MB代替技術へのスムーズな移行による病害発生抑制(ショウガ)</p> <p>◆夏期高温期の収量・品質向上の更なる対策が必要である(ミョウガ、ニラ)</p>	<p>・まとまりのある園芸産地育成事業における現地検討会などの開催</p> <p>※ミョウガ2回、ピーマン2回、ニラ1回、露地ショウガ2回</p> <p>・JAと連携した品目経営分析説明会の実施</p> <p>※ミョウガ、ピーマン、ニラ、キュウリ、イチゴ、アスパラガス他</p> <p>・夏期高温期対策としての遮光資材グループ実証の開始</p> <p>※資材導入：ミョウガ5/14、ニラ6/21</p>
<p><b>4 津野山牛ブランド化</b></p> <p>《橋原町、津野町》</p> <p>津野山地域(津野町・橋原町)の子牛生産から肥育の地域一貫経営を確立し、地域内外で精肉や肉の加工食品を販売をすることで、「津野山牛」の認知度をアップし、生産頭数増、飼育者増等に繋げる。</p> <p>【(仮称)肉用牛増殖育成センター、橋原町、津野町】</p>	<p>○船戸加工所「満天の星」において津野山牛の商品化(総菜・アンテナショップのレストラン用メニュー)ができた。</p> <p>◆地域における生産から販売までの一体的な増殖肥育販売体制の確立が必要である。</p> <p>◆消費者への認知度アップによる購買者確保対策(家畜市場としての魅力づくり)を図らなくてはならない。</p> <p>◆四国カルストを利用した「夏山冬里方式」の管理体制(人員確保など)の強化が必要である。</p>	<p>・津野山牛ブランド化推進戦略会議実施(6/7)</p>
<p><b>5 大野見米のブランド化</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化をキーワードとして、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進する。</p> <p>【中土佐町、JA四万十】</p>	<p>○22年度：イベントで1tの試食、販売などPRIに取り組んだ。</p> <p>○23年度：特別栽培農家が4戸となり目標収量480kgを達成した。イベント等での販売も1.7tと増加し、販売単価12030円/30kgと高単価で販売でき手応えをつかんだ。</p> <p>◆農家間の栽培技術には差があり、ヒノヒカリ以外の品種で取り組みたいという農家もあり、将来へ向けての発展方向など意識統一には至っていない。</p>	<p>・研究会の実施(2回)</p> <p>・実証圃の設置(5カ所)。</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA土佐くろしお管内の第2次地域振興計画が策定され、関係機関の年間活動計画の共有ができた。</li> <li>・重油代替加温機の実態調査で、改善が必要な圃場があることが明らかとなった。</li> <li>・IPM技術の天敵導入に関心がたかまり、導入品目が増加している。また、土着天敵にも興味を持つようになった。</li> </ul>		<p>【指標】 主要農産物販売額 (H19:ミョウガ47.2億円) (H23:ミョウガ 52.9億円)</p> <p>【目標(H27)】 ミョウガ 55億円</p>
<p>○園芸部全体で適正農業規範に基づく点検活動に取り組む動きが始まった。</p>		<p>【指標】 ①農協取扱主要品目売上 (H19:6.1億円) (H22:5.6億円) ②所得400万円以上の農家数 (H22:1戸)</p> <p>【目標(H27)】 ①5.9億円 ②5戸</p>
		<p>【指標】 ニラ販売金額 (H22:8億円)</p> <p>【目標(H27)】 10億円</p>
		<p>【指標】 ①地域牛の頭数 (H22:203頭) ②増殖育成センターにおける地域牛の占有割合 (H22:18%)</p> <p>【目標(H27)】 ①230頭 ②40%</p>
<p>・研究会参加者:18名</p>		<p>【指標】 エコ米販売量 (H23:1,048kg)</p> <p>【目標(H27)】 20t</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>6 つの茶販売戦略</b></p> <p>《津野町》</p> <p>単価安な二番茶をほうじ茶として「お茶スイーツ」に加工し、商品力でトップランナーとしての地位を固めることで、「つの茶」の地域ブランド化を目指し、主力商品である、一番茶の単価アップ、生産・販売量増等の波及効果を狙う。</p> <p>【JA津野山、津野町】</p>	<p>○専門家により二番茶を使ったスイーツのメニュー開発、販売計画と共に食材供給体制の整備などができた。</p> <p>◆価格低迷が続く中、独自販売や付加価値を付けて安定価格での取引を望む声が多い。</p> <p>◆二番茶は平成16年頃から急激な単価安となっている。</p> <p>◆地域ブランドを確立し、一番茶の販売増を図る必要がある</p>	<p>・販売促進活動</p> <p>・生産組合での供給体制強化の確認</p> <p>・満天の星のオープニングにより新たな需要を生じた『ほうじ茶』生産体制構築</p>
<p><b>7 集落営農組織のステップアップの推進</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>集落営農組織の農地の集積や法人化、組織の経営安定等、集落営農組織のステップアップに向けた取組を推進し、農地を守り次世代に継承できる集落営農組織への発展を目指す。</p> <p>【集落営農組織協業経営研究会(集落営農11組織)】</p>	<p>○四万十町内の139農業集落のうち80の集落営農組織が設立されており、共同利用機械・施設が導入され、農作業の受委託等により、農地の維持と水稻経営の低コスト化が進んだ。</p> <p>○こうち型集落営農の推進により、2モデル集落が園芸品目等を導入して協業経営に取り組む、影野下集落では、県内初の農事組合法人(ビレッジ影野、H22年2月)が設立された。</p> <p>◆集落営農組織を、地域農業を担う持続した組織に育成するため、農地集積による営農の確立及び所得確保の仕組み作りが必要である。</p>	<p>・研修会の開催2回</p> <p>・集落営農の推進について関係機関で協議4回</p> <p>・ビレッジ影野定例会3回</p>
<p><b>8 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>JA四万十「みどり市」産直コーナー等への野菜の安定供給や販売拡大を図ると共に、「みどり市」の移転、農家レストランの開業を行い、地消地産による地域の農業者の所得向上を目指す。</p> <p>【JA四万十】</p>	<p>○JA四万十「みどり市」の直売部部会員数は339名(H24、3月末)になり、目標の330名を達成した。</p> <p>○農産物等の安定供給に努め、産直部門の売上高は149,871千円(H23)に増加し、加工品の開発販売にも取り組むことができた。</p> <p>○給食センターへの農産物の供給体制が整い、町内産品の占める割合が増加した。(給食の地場産率(H23)重量ベース73%、食品数ベース48%)</p> <p>◆野菜が集中する時期と少ない時期があり、年間を通じた安定供給が必要。</p> <p>◆販売部会員の高齢化の進行等により、出品量の減少が懸念される。</p> <p>◆「みどり市」の拡充、農家レストランの開業の構想はあるが、具体的な取り組みはこれからで、農家レストランのノウハウがない。</p>	<p>・野菜栽培講習会1回</p> <p>・農家レストラン企画検討委員会2回</p> <p>・農家レストラン先進地視察研修1回</p>
<p><b>9 四万十町地産外商の推進</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>中山間地域の小規模・高齢農家の農業振興を図るため、大正・十和地区を中心に市場で要望のある農林水産物の生産・集出荷加工流通販売体制を江師農林水産加工工場を拠点に構築し、農林水産業者の所得向上及び地域活性化を目指す。</p> <p>【四万十町地産外商推進協議会】</p>	<p>○22年度の四万十町江師農林水産物集出荷加工場の稼働により、町内の農林水産物を惣菜や冷凍食品の原材料として1.5次加工、販売する体制が整い、県外食品加工会社等への市場調査や商談などの実施で新たな販路を開拓し、農林水産物加工工場を地産外商の拠点とした流通販売体制づくりが進んだといえる。</p> <p>○生産が集中した時期に、1.5次加工を行い一定安定供給が可能になり、欠品件数の減少が図れるようになった。</p> <p>○庭先集荷及びコンテナ出荷が定着し、主にナバナの集荷、出荷が確立され生産指導により品質の統一化も出来た。</p> <p>◆販路開拓で出荷契約量は拡大したが、安定供給のために、商品(生産物)の確保、他組織や団体との協力関係の構築、生産者の意欲向上が必要。</p>	<p>・四万十町地産地消外商協議会の構成団体を再編成し、総会を開催。</p> <p>・しいたけ・たまねぎの加工商品の試作品づくり(3品)</p>
<p><b>10 四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十町の農業や化学肥料を使わずこだわりを持って栽培した野菜を利用して、価値を最大限に活用した加工品の開発と販売拡大を行い、農家所得の向上と地域雇用の確保、農業の担い手づくりなど地域の活性化を図る。</p> <p>【桐島畑】</p>	<p>○平成22年度の加工施設完成により、加工品の生産体制や野菜の出荷体制が整い、顧客の増加も図って目標値を達成した。23年度も順調に売上高を伸ばし雇用の確保にもつながった。</p> <p>◆今後は、野菜の付加価値向上と販路の拡大、需要増に伴う安定供給体制づくり、地域のネットワークづくりが必要である。</p>	<p>・全国紙への掲載</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> 茶販売額 (H22: 65,720千円)  <b>【目標(H27)】</b> 69,000千円
		<b>【指標】</b> 法人化等組織数 (H22: 1組織)  <b>【目標(H27)】</b> 4組織
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA四万十農家レストラン企画検討委員会設立</li> <li>・みどり市の販売金額:37,315千円                (H24年6月末)、前年対比93.2%</li> </ul>		<b>【指標】</b> 産直コーナーの販売金額(H22: 159百 万円)  <b>【目標</b> 180百万円
		<b>【指標】</b> 農林産物の生鮮加工販売額 (H22: 約34,000千円)  <b>【目標(H27)】</b> 48,000千円
<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上実績: 1,764千円(昨年比: +403千円)</li> <li>・新たな顧客の開拓(4件)</li> <li>・農業研修生の受入(3名)</li> </ul>		<b>【指標】</b> 加工品及び野菜販売額(H21: 6,558千 円)(H22: 11,791千円)  <b>【目標(H27)】</b> 17,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>11 四万十の栗再生プロジェクト</p> <p>《四万十町》</p> <p>北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、民間直営農場や作業受託組織の育成等、新たな担い手による生産拡大と増産に対応できる集荷施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。</p> <p>【四万十の栗再生プロジェクト推進協議会】</p>	<p>○四万十の栗再生プロジェクト推進協議会を設置し、生産から加工、流通販売に至る一元的な体制を構築するとともに、せん定技術や選果選別の徹底により品質向上を図った。</p> <p>超特選栗志向者(園)11名認定</p> <p>○新植、再生モデル園の設置や、先進地の剪定師養成派遣研修の実施、栗栽培テキストやGAPチェックシート作成、加工業者等対象の剪定・改植講習会を開催し、品質に応じた販売を実施することにより、生産者の栽培意欲の高まりに繋がっている。</p> <p>・新改植の増加 H22:3ha、H23:3.5ha</p> <p>○H18に開始したタネヒサ(有)の十和工場の稼働により、年間200人の雇用の創出に繋がっている。</p> <p>○栗産地構造改革計画が作成され目標が明確になった。</p> <p>◆園地の老木化、獣害被害による生産意欲の減退、今後の生産量増加時の加工体制</p>	<p>・四万十の栗再生プロジェクト打ち合わせ(事前打ち合わせ) 2回(2回)</p> <p>・四万十の栗再生プロジェクト会 1回</p> <p>・モデル園の受粉樹高接 1回</p> <p>・モデル園のシカ食害対策 3回(×2~3名)</p>
<p>12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり</p> <p>《四万十町》</p> <p>滞在型市民農園の機能強化やお試し移住施設の整備などを行い、窪川、大正、十和の3地域ごとに地域との交流を含めた受入体制を整えとともに、移住希望者等のニーズに沿った支援策を実施し、四万十町全体で移住に繋がりがしやすい風土づくりを目指す。</p> <p>【四万十町、営農支援センター(株)】</p>	<p>○クラインガルテン四万十を移住促進、担い手確保のため、平成21年度に施設を整備し、22年4月に運営開始後、施設稼働率が93.5%(H24.3月末時点)と目標の80%を達成した。滞在型施設稼働率93%(14/15棟)、日帰り型施設稼働率94%(15/16区画)</p> <p>○移住の促進について、役場に移住相談窓口を設置し、地域との協力関係づくりに取り組むなど、移住促進への活動が開始された。また、空き家調査を実施、ホームページに情報を掲載しクラインガルテンや農大等の移住希望者に情報提供できる仕組みが確立された。</p> <p>○交流の促進について、施設内イベント及び町内各種イベント等への施設利用者の積極的な参加、住民との交流が広がっている。</p> <p>◆移住定住促進に繋がる仕組みづくりや施設利用者への移住意欲の醸成に繋がる取組が必要。</p>	<p>・クラインガルテン運営協議会開催:2回</p> <p>・滞在型市民農園利用者選考会:1回</p> <p>・空き家情報のHP紹介(H24.6.20現在):8件</p> <p>・移住窓口対応件数(H24.6.20現在):29件</p>
<p>13 地域資源活用推進と加工場等の整備</p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十町の地域資源を広く活用し付加価値を付けた加工品の開発と高品質で安定的な供給体制を確保できる拠点的な加工施設を整備し、農林水産業の所得の向上と雇用の確保に繋げる。</p> <p>【四万十町】</p>	<p>○平成23年度に四万十町地域資源活用協議会を立ち上げ、農大跡地の活用と加工施設の整備について検討を行っている。</p> <p>○農大跡地及び周辺施設を活用した農業経営モデルの検討を実施。</p> <p>◆事業実施計画の策定 加工用農産物の洗い出し、加工施設整備の検討、事業主体の決定及び連携事業者の検討、商品開発と市場調査、集荷生産加工体制の構築など</p>	<p>・地域資源活用協議会開催:1回</p>
<p>14 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用</p> <p>《四万十町・中土佐町》</p> <p>四万十森林資源の高付加価値化を促進するため、広域で取り組む「四万十ヒノキ」の地域団体商標登録を目指すと共に、FSC・SGEC認証材の加工・販売の拡充、更には検討中の大型製材工場設置に向けた取組を推進する。</p> <p>【四万十町森林組合、須崎地区森林組合、四万十町内製材業者】</p>	<p>○「高幡ヒノキ」から「四万十ヒノキ」としてのブランド化への広域的な取組を推進するため、広域4市町村(四万十市・三原村を含む。)で連携して「四万十ヒノキブランド化推進協議会」が発足(H23.8.24)した。</p> <p>◆「四万十ヒノキ」としての規格・基準等が未設定で、地域団体商標登録のための実績づくりが遅延しているほか、制度の性格上から森林組合のみの取組となっている。</p> <p>○FSC森林認証制度を活用した木材加工製品の販売強化を推進し、需要低迷の中で安定的な販売高を確保できた。</p> <p>◆FSC認証材が高付加価値化を得るまでには至っておらず、PR強化の手法と顧客の手応えを確保することが緊要である。</p> <p>○大型製材工場設置促進事業等を通じて、具体的な設置の動きが現れた。</p> <p>◆具体的な用地確保、自己資金調達計画や整備後の販路確保等、問題が山積している。</p>	<p>・四万十ヒノキブランド化幹事会開催(6/1)</p> <p>・外商活動延べ98回(県内53回、県外45回)4~6月</p> <p>・新商品開発打合せ(3回)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
		<p>【指標】            原材料供給量(JA集荷量)            (H20:59t)            (H22:56t)</p> <p>【目標(H27)】            100t</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在型施設稼働率(6月現在)100%(15/15棟)</li> <li>・日帰り型施設稼働率(6月現在)93.8%(15/16区画)</li> <li>・移住者数(6月末見込み):2組、4人</li> </ul>		<p>【指標】            ①施設稼働率            滞在型市民農園            (H22:滞在型100%、日帰り型94%)            ②移住者数            ※四万十町窓口を通して移住された方</p> <p>【目標】            ①90%            ②15組</p>
		<p>【指標】            ①四万十ヒノキのブランド品の販売            ②FSC等森林認証面積 (H22:3,755ha)            ③FSC認証材製品売上高(H22:11百万円)            (総売上高の内数)            ④JAS認定工場</p> <p>【目標(H27)】            ①原木:9,000m<sup>3</sup>、製品売上高:2.7億円            (FSC製品:20百万円)            ②5,700ha            ③20百万円            ④1社増設</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用</p> <p>《梶原町》</p> <p>持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者への所得向上を推進する。</p> <p>【梶原町森林組合、ゆすはらペレット株】</p>	<p>○梶原町森林組合は、他に類を見ない全6工場で建設業者とのJVによる効率的な「森の工場」を運営し、安定的な木材生産量(H22 648m<sup>3</sup>)を達成した。</p> <p>◆反面、森の工場の団地数を勘案すると木材生産量が極めて低量であり、通年的な生産体制の確立と生産性の向上による収益増が懸案。</p> <p>○製材品需要が低迷するなか、各種イベントも活用した継続的な営業展開により、FSC認証材の販売量(H22 1,015m<sup>3</sup>)を堅持した。</p> <p>◆一般材との差別化を図るためのFSC認証材の価値観を創出し得るPR強化と、新規顧客開拓のための専任の営業担当者が不在である。</p> <p>○梶原町の「環境モデル都市」宣言に基づくエネルギー自給率100%達成に向けた木質ペレットの安定供給体制の整備と、地域残材等を活用した林家所得の向上に寄与できた。</p> <p>◆ペレットボイラー導入の普及拡大とペレット品質の安定化(配合調整による綿化対策等)。</p>	<p>・営業活動延べ28回(県内13回、県外15回)4～6月</p> <p>・産地セミナー開催4/21～22</p> <p>・ペレット生産に関する会議の開催(取締役会2回、事業推進会議2回)</p>
<p>16 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シタケの産地化の推進</p> <p>《梶原町・津野町》</p> <p>「大上厚シタケ」を筆頭とする有望品目「原木乾シタケ」を地域の特産品として磨きあげ、生産者の所得向上につなげることを目的として、生産者のスローガンである「1億円産業の復活」を実現するための方針・推進体制づくりや基幹生産者の育成や新規生産者の確保育成による担い手対策、商品力の向上や加工品開発、生産者と連携した営業活動による営業体制の強化と直販ルートの拡大、生産施設の増強や低コストで原木を確保する対策など生産基盤施設の整備を実施する。</p> <p>【JA津野山】</p>	<p>○「スーパーマーケットトレードショー」への出展等、デパート等への営業活動により新たな販売ルートを開拓するとともに、「大上厚シタケ」を筆頭に産地の知名度が向上した。</p> <p>○高知県産業振興推進総合支援事業を活用し、乾シタケ販売量10tを達成するための施設整備(ハウス・乾燥機・散水施設の導入、モデルほだ場の整備等)を行い、平成19年度の販売量2.5tが平成23年度には6.1tと大幅に増加した。</p> <p>○JA津野山椎茸部会会員数は平成21年度末の69名から平成23年度末で98名に増加。生産者の意欲が高まっている。</p> <p>◆「1億円産業の復活」という生産者の思いを実現するためには、それに向けた戦略の策定や生産・販売体制の増強といった産地化に向けた取組の強化が必要。</p>	<p>・JA津野山椎茸部会総会(4/19)</p>
<p>17 美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト</p> <p>《須崎市》</p> <p>美味しい旬の須崎の魚を食べてもらうことや学校・保育給食での魚食の普及を行うことなどにより、須崎の魚の消費を拡大する。</p> <p>【須崎市、海の駅「須崎の魚」】</p>	<p>○毎年9月に行なわれている新子まつりなどで須崎の魚のPRIはできている</p> <p>◆観光客や市外在住者が日常的に須崎の魚を食べることができない。</p>	<p>・実行支援チーム会(2回)</p> <p>・旬の魚まつり(2回)</p>
<p>18 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進</p> <p>《中土佐町》</p> <p>観光物産センター(仮称)を設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、物産においても、スラリーアイスを活用した付加価値の高い水産物(カツオ、メジカ、ウルメ、アマダイ等)のブランド化を図り、販路を開拓するとともに、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。</p> <p>【中土佐町】</p>	<p>○スラリーアイスの活用(H21～H23)</p> <p>平成21年度に施設を整備し、スラリーアイスを活用した魚価向上対策として実証実験、官能試験を実施してきた。その結果、地元漁師や協力店等から高い評価を得ており、特にカツオは、新しい保存方法を用いると48時間後でも刺身で食べることが可能との結果となり、有効性が証明された。</p> <p>官能試験の協力店(県外2店、高知市内8店、町内9店)</p> <p>受注販売(県外1店舗、県内6店舗)</p> <p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度の魚を管理し、安定して流通させ、販路開拓を行えるシステムの確立。</p> <p>◆スラリーアイスを活用した高鮮度の魚の認知向上。</p>	<p>・個人向け商品「びんび経タキセット」販売開始</p> <p>・中土佐町観光物産センターの設立(6/29)</p>
<p>19 シイラ加工の生産体制の強化</p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十町興津地区において、水揚げ直後のシイラを高鮮度のまま加工、販売している企業組合の原材料の調達や商品開発、販売促進を支援し、企業組合の経営安定を図り、地域の活性化に繋げる。</p> <p>【四万十町、興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合、興津漁協】</p>	<p>・シイラ加工販売施設の整備オープン(H22年4月)</p> <p>・フレマシン等の導入(H22年11月)による一次加工の処理能力向上と加工商品の品質向上。</p> <p>・新商品の開発 約48品(試作品含む)</p> <p>・取引先の確保:37業者(H23年度の新規開拓先8業者)</p> <p>・販売金額:7,382千円(H22)</p> <p>・安定的な原魚調達</p> <p>・経営体としての管理・生産能力の向上</p>	<p>・平成24年度事業計画書の作成</p> <p>・平成24年度通常総会(6/12)</p> <p>・関係者協議(2回)</p> <p>・他社との商談(1回)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・製材品販売量: 713m <sup>3</sup> うちFSC認証材267m <sup>3</sup>		<b>【指標】</b> ①木材生産量 (H22:648m <sup>3</sup> ) ②認証材の販売量 (H22:1,015m <sup>3</sup> ) ③ペレット原材料の調達 (H22:2,465t) ④ペレット生産量(H22:1,108t)  <b>【目標(H27)】</b> ①5,000m <sup>3</sup> ②1,600m <sup>3</sup> ③3,700t ④1,500t
		<b>【指標】</b> 乾燥シイタケの販売量 (H19: 2.5t) (H22: 3.6t)  <b>【目標(H27)】</b> 11t
		<b>【指標】</b> 売上高 (H22:6,790千円)  <b>【目標(H27)】</b> 10,000千円
・「びんびんタキセット」販売 5月～6月(100セット以上販売)		
		<b>【指標】</b> 加工品販売金額 (H22:7,382千円)  <b>【目標(H27)】</b> 15,000千円

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>20 シイラ加工食品の生産拡大</p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十町産のシイラと農産物素材とのコラボによる練り製品の新商品開発と販路拡大を図り、シイラ産業の発展を加速させる。</p> <p>【(株)けんかま】</p>	<p>◆シイラ竹輪の量産体制の確立(製造ライン整備 H23年1月)</p> <p>◆興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合と連携したこだわりのある「四万十マヒマヒ竹輪」の商品開発</p> <p>◆販路開拓: 県内外の量販店グループ</p> <p>◆販売金額: 12,189千円(H23年10月末)</p> <p>◆興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合からの原材料の確保13t(H22)</p> <p>◆競合他社製品との差別化を図る仕掛け</p> <p>◆シイラ利用拡大のための新商品開発</p>	<p>◆新パッケージの「四万十マヒマヒ竹輪」発売開始(5月14日)</p> <p>◆こうち農商工連携事業への申請</p>
<p>21 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業</p> <p>《須崎市》</p> <p>高速道路の県西部への延伸に伴い、須崎市が通過点になることを防ぐため、須崎のまち全域をサービスエリア的に利活用し、高速道路利用者にもちの機能を活用したさまざまなサービスを提供することによって、まちの活性化を図る。</p> <p>【須崎市、須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会】</p>	<p>○SAT情報館、街角ギャラリー、駅前トイレ、駅前観光案内所、駅前食堂などの設置により、立ち寄り拠点ができ、SATまつりやまちあるきの実施により、それぞれの施設を巡る仕掛けもできつつある。</p> <p>◆各立ち寄り拠点の魅力アップと連携の強化</p>	<p>◆携帯版観光情報収集整理事業(緊急雇用)2,370千円</p> <p>◆すさきSAT街角ギャラリー・ほっと一息休憩所整備事業(緊急雇用)4,869千円</p> <p>◆すさきSAT観光ガイド及び賑わいづくり企画実施事業(ふるさと)6,819千円</p> <p>◆SAT補助金交付(すさきセタかざりイベント)</p>
<p>22 大正町市場商店街活性化事業</p> <p>《中土佐町》</p> <p>中土佐町の観光拠点であり、地域の中心商店街でもある「大正町市場商店街」の空き店舗を有効活用し、大正町市場及び中土佐町の観光案内や町内産品の販売など大正町市場の活性化に繋がる拠点として整備するとともに、町内全体への観光客の集客を図り、町全体への波及効果を促す。</p> <p>【大正町市場組合、中土佐町商工会、中土佐町】</p>	<p>○空き店舗の活用(H22～23)</p> <p>スーパ跡地を町が休憩所として整備し、観光情報発信の場として活用するとともに、旧高知銀行跡等の民間による活用もあり、目標は達成された。</p> <p>◆高齢化等により徐々に空き店舗が増える大正町市場の状況をふまえ、核となる大正町市場商店街の活性化及び町内への入込客数の増加を図る方策を考え実行していく必要がある。</p>	<p>◆中心商店街の復活活性化事業(緊急雇用)業務委託→雇用1名</p> <p>◆大正町市場空き店舗にて、チャレンジショップ開設</p>
<p>23 久礼の浜屋敷整備事業</p> <p>《中土佐町》</p> <p>久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。</p> <p>【中土佐町】</p>	<p>○久礼新港の背後地利用計画については、「まちづくり検討委員会」や関係者と賑わいの創出に繋がる施設整備に向けて協議検討するとともに、用地取得や経営計画策定業務を委託するなど具体的に動き始めた。</p> <p>用地取得完了(買収面積A=9,752.04m<sup>2</sup>)</p> <p>温泉掘削作業完了(泉温31.5℃、湧出量53L/min)</p> <p>◆施設の運営管理者の決定及び育成</p> <p>◆計画に参画する多様なニーズを持つ関係者との調整</p> <p>◆津波避難対策</p>	<p>◆基本設計及び実施設計委託業務費を承認</p> <p>→基本設計 公募型プロポーザル方式にて9月までに発注予定</p> <p>◆津波避難路整備について、都市防災事業(H24 53,000千円)にて予算措置</p> <p>→測量設計 7月発注予定</p>
<p>24 「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト</p> <p>《中土佐町》</p> <p>現在進めている地域資源を使った商品開発を継続発展的に進めていくことにより、中土佐町の地域産業の向上を図るとともに大正町市場を中心とした地域の活性化を図り、賑わいづくりの創出を行う。中土佐町の海からの物語性のある商品を開発し、次世代ターゲットとなる若者層の関心を高め、新規顧客を開拓することにより、都市部との交流や消費拡大を図り、漁師のおばちゃん達が売るという大正町市場周辺及び中土佐町の価値を高める。</p> <p>【企画・ど久礼もん企業組合】</p>	<p>○「かつお」を使った商品開発と販路開拓(H21～H23)を進め、辛焼味噌カラヤン、なぶらスープカレー、漁師のラー油など目標の5商品以上を開発し、グルメ&amp;スタイルダイニングショーでの受賞や漁師のラー油のヒットなど生産体制が追いつかないほど、高い評価を受けた。</p> <p>○大正町市場の活性化(H22～H23)</p> <p>○「cafe do kuremon」をオープン(H22年4月)</p> <p>し、中土佐の食文化を広めるとともに雇用の創出に繋げるなど、大正町市場の賑わいづくりに取り組んだ。</p> <p>14名(正社員3名、パート等11名)</p> <p>○また移住交流事業として、世代を超えた地域と外部の交流を図り、地域のいいもの再発見ワークショップ等を実施した。</p> <p>◆新たな商品を開発するために人材の育成と加工施設の整備。</p> <p>◆販路の開拓</p>	<p>◆中心商店街の復活活性化事業(緊急雇用)の業務受託</p> <p>→大正町市場周辺の賑わいづくりへ</p> <p>◆新商品の開発</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> ファイル取扱数量 (H22:13t)  <b>【目標(H27)】</b> 34t
		<b>【指標】</b> ①街角ギャラリー来場者数(H22:2,071人) ②日・木曜日出店者(H22:60店) ③携帯サイトアクセス数(H22:2,246千件) <b>【目標(H27)】</b> ①1万人 ②80店 ③10,000千件
		<b>【指標】</b> 大正町入込客数の増加(H22:浜ちゃん食堂25,463人)  <b>【目標(H27)】</b> 28,000人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発・販売               <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐塩麴</li> <li>・楽でしようが</li> </ul> </li> <li>・café新商品               <ul style="list-style-type: none"> <li>・焼きラーうどん(塩麴味)</li> </ul> </li> </ul>		<b>【指標】</b> ①開発する商品数 ②売上高(H22:22,748千円)  <b>【目標(H27)】</b> ①5商品 ②28,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>25 栲原町地場産品の地産地消・外商の促進</p> <p>《栲原町》</p> <p>栲原町にある一次産品や加工品など、さまざまな地場産品の町内外への販売を、IT等の活用、町内外への販売促進活動、並びに町内の福祉施設及び小中学校等の給食に地域産品を調達する仕組みづくりによって促進するとともに、地場産品の商品力向上を促進する。</p> <p>【栲原町商工振興協同組合、JA津野山、町内事業者、生産団体】</p>	<p>○イベント等の参加のほか、松山市の量販店での店頭販売等新たな取組が生まれている。</p> <p>○平成22年8月にオープンした「まの駅」の出荷登録者数は平成23年5月に80名を突破し、その後も増加している。</p> <p>○フードコーディネーターの指導による食品加工研修や町単独事業により、新たな商品作りの取組が生まれている。</p> <p>○学校給食における地産地消は、関係者の努力により着実に利用率が向上。</p> <p>◆地産外商の機会の拡大や新商品開発、商品の磨きあげにより地域にお金が落ちる取組をさらに推進する必要がある。</p> <p>◆学校給食等における地産地消の推進のため、生産・供給体制づくりが急がれる。</p>	<p>・農林業をいかにお金にかえるかを考える会(3回)</p> <p>・直販所等の指定管理者と町の定例会(3回)</p>
<p>26 津野町地産地消・外商販売戦略</p> <p>《津野町》</p> <p>ビジネスの拠点となる組織が中心となって、農産物販売システムにより、津野町の産品の販売を行っている。</p> <p>ふるさとセンターと道の駅の統合、高知店(瀬戸、十津店)の改善計画策定、新アンテナショップとの連携等により、拠点ビジネスの安定化を図り、組織体制の再構築、町内外への情報発信による交流人口の拡大を図る。</p> <p>【ふるさとセンター、津野町】</p>	<p>○集荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等の)整備による町内流通網の拡充できた。</p> <p>○販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想が実現できた。</p> <p>○生産性向上(ハウス、実証圃等)対策などにより、会員も増加して販売額も増加傾向にある。</p> <p>◆ふるさとセンターと道の駅を統合し、H23年度中に作成する具体的な経営改善計画(体制、戦略等)の実行が必要である。</p> <p>◆アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化を図る必要がある。</p>	<p>・生産者会の発足(4/19)</p> <p>・販売会議・経営会議・直販所連絡会・満天の星定例会での売上高の分析・改善強化</p>
<p>27 四万十町拠点ビジネス体制の強化</p> <p>《四万十町》</p> <p>地域資源を有効に活用するため、地産地消や加工品開発販売などを一体的に担うビジネス拠点組織を中心とした仕組みや体制を整備し、地域の活性化や所得の向上を目指す。</p> <p>【四万十町、(株)あぐり窪川】</p>	<p>○行政、地域団体、生産者等による「四万十町拠点ビジネス事業運営協議会」を設置し、基本戦略である「四万十町スタイル」を取りまとめた。</p> <p>○バラエティに富んだ個性ある旧3町村(十和-大正-窪川)の産品を一元的に流通販売し、コスト削減を図るとともに新たな販路を開拓した(県内12店舗、県外2店舗)。</p> <p>○四万十町の地域資源を活用した加工品を開発(5商品)するとともに、3つの道の駅での連携商品(3井)を開発した。</p> <p>◆事業主体の拠点ビジネス事業を運営していく主体性の向上</p> <p>◆新たな運営協議会の立ち上げと運営体制の構築</p> <p>◆農産物等の取扱数量が減少傾向にあることから、生産体制を含め取扱量の確保が課題</p> <p>◆四万十町アンテナショップのコンセプトの構築</p>	<p>・四万十町拠点ビジネス運営協議会設立総会:1回</p> <p>・四万十町拠点ビジネス運営協議会担当者会:3回</p> <p>・四万十町拠点ビジネス運営協議会事務局協議:3回</p> <p>・アンテナショップ店長、パートの募集</p> <p>・チーム会開催:1回</p>
<p>28 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備</p> <p>《須崎市》</p> <p>須崎市への教育旅行や団体旅行を増やすため、地域資源を活かした体験メニューの充実、民泊受入世帯の拡大を図る。</p> <p>【須崎市観光協会、NPOすさきスポーツクラブ】</p>	<p>○交流人口の拡大を旨とし、体験プログラムの造成、旅行会社主体の誘惑活動、併せてインストラクター研修会などに取り組む。また、教育旅行の誘致・受入増を図るため民泊受け入れ先の拡大に力を入れている。</p> <p>・体験旅行者数:H23実績 3,763名(H22実績:3,228名、H21実績:2,881名)</p> <p>・宿泊施設等の充実</p> <p>民泊受入世帯14世帯確保</p> <p>◆教育旅行民泊受入先の確保、プロモーション活動、体験プログラムの増及びインストラクター養成</p>	<p>・民泊受入見込み者の調査(訪問実施)</p> <p>・民泊ミニ説明会の開催</p>
<p>29 中土佐町の地域資源を生かした体験型観光の推進</p> <p>《中土佐町》</p> <p>重要文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、商品の販売を積極的に行うとともに、ガイド等のレベルアップのための研修等人材育成を行い、受け入れ態勢を充実させ、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【中土佐町】</p>	<p>○インストラクター研修会開催によるガイド内容、使用アイテムのブラッシュアップを図る。またモニターツアー実施結果のフィードバックによるおもてなしの向上に取り組む。営業面では教育旅行をターゲットとした活動による予約受注。山間部においては地域住民参加のワークショップを開催、自らの地域のよさを再確認し、外部に知ってもらい、いかに訪れてもらうかなど意見交換、リーフレット作成の提案など意識の変化が見られた。</p> <p>・まち歩きガイド8名養成</p> <p>・JRとタイアップし「味な散歩道」によるまち歩き商品販売開始</p> <p>◆お客様のニーズに応えられるコース及び時間設定を検討、インストラクターの養成及び資質向上</p>	<p>・4/10大野見地区ワークショップの開催</p> <p>・かつお祭りでのパンフレット配布による観光PR(5/20、来場者1万7千人)</p> <p>・モニターツアー開催(6/17)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> ①「まちの駅」出荷登録者数 (H22:77名) ②「まちの駅」販売額 (H22:15,120千円)  <b>【目標(H27)】</b> ①120名 ②40,000千円
・直販所実績(6月末) 44,770千円(対前年比128.9%)		<b>【指標】</b> 高知店販売額 (H22:69百万円) 総販売額 (H19:110百万円) (H22:136百万円)  <b>【目標(H27)】</b> 90百万円 162百万円
	・アンテナショップ新規雇用:1人	<b>【指標】</b> ①地域産品・土産品等の磨きあげ及び 新商品開発 (H22:5品目) ②あぐり窪川販売金額 (H22:2.9億円) ③アンテナショップ販売金額 ④常勤雇用者数 <b>【目標(H27)】</b> ①5品目以上 ②4.2億円 ③4.5千万円 ④3人
・教育旅行の受入:4/20東高校(228人)、5/17矢田西中(62人)、5/23富雄中(355人)、6/27土佐塾高校(206人) 合計851人		<b>【指標】</b> ①民泊受入世帯数 (H22:0世帯) ②体験旅行受入数 (H22:3,228人)  <b>【目標(H27)】</b> ①100世帯 ②10,000人
・5/17久礼のまち歩き実施 9人 ・6/17上ノ加江漁業体験モニターツアー開催 - 参加者89人		<b>【指標】</b> 体験受入数 (H22:1,700人)  <b>【目標(H27)】</b> 2,300人

＜高幡地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>30 梶原町の体験型・滞在型観光の推進</p> <p>《梶原町》</p> <p>「龍馬脱藩の郷」としての取り組みを継続。まち歩きやセラピーロードを初めとした体験型観光、住民主体のおもてなし・受入体制の一層の充実を図る。そして環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動を行う。</p> <p>【梶原町商工会、梶原町、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会】</p>	<p>○誘客、受入・おもてなし体制 地域(住民)組織「ゆすはら社中」による町内 が一体となった龍馬博、それに続くふるさと 博を活かした誘客、受入・おもてなしの各種 取り組みを実施。多くの観光客が訪れ「龍馬 脱藩の郷」としてのイメージの定着が図られ た。また町民がお客様をお迎えすることによ る効果を実感したことも今後続く大きな成 果</p> <p>◆実績(4/1～3/31)</p> <p>・宿泊者数：雲の上/マルシェ…8,259名(前 年 6,485名)</p> <p>・まちあるきガイド参加者数… 2,981名(前 年 11,175名)、ガイド養成人員：20名</p> <p>・育んできた環境への取り組みが「学び」を テーマに観光資源に。</p> <p>◆龍馬のまち、環境のまち、癒しのまちのア ピールによる誘致活動強化</p>	<p>・旅行会社への営業活動実施—東京(4/18-20)、東京(5/14-15)、 福岡・広島(6/5-6)、京阪神(6/20-22)</p> <p>・愛媛県のイベント参加によるPR活動…松山春まつり(4/8)、砥部 焼まつり(4/21-22)</p> <p>・梶原千百年物語りへの改修に向けた検討(6/19)</p>
<p>31 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～</p> <p>《津野町》</p> <p>四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里 公園、セラピーロードなどを中心とした津野町の観 光スポットと歴史や伝統文化、地域の食など津野 町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集 客を図る。</p> <p>【津野町】</p>	<p>○案内板の整備や、観光図鑑の作成などを 行い、来てくださった方への町内の宿の連携 とおもてなし力の向上と、観光ガイドの育成 に取り組み、目標であった、年間宿泊数 9,000人超を維持することができている。</p> <p>◆観光ガイドの養成と、全体のスキルアップ</p> <p>◆おもてなし向上の更なるステップアップへ の機運の向上</p> <p>◆県外への情報発信の強化</p>	<p>・アンテナショップ職員の津野町内の観光研修の実施(5/15、 5/16)</p> <p>・愛媛県南予地域へのPR(4/27)</p> <p>・津野町加工所におけるふれあい特産市の開催による情報発信 (5/27)</p> <p>・地域資源活用共有会議(5/15)17名参加</p>
<p>32 わざわざ行こう「海洋堂ホビー館四 万十」を核としたミュージアムのまちづくり</p> <p>《四万十町》</p> <p>「海洋堂ホビー館四万十」の校舎等を企画展示や 体験教室として整備し、四万十町の観光拠点として ブラッシュアップを図るとともに、周辺に整備予定の 新たなミュージアムや四万十川流域の豊かな自然 や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源 を有効に組み合わせた更なる観光交流人口の拡 大を図る。</p> <p>【四万十町、(株)奇想天外、(株)海洋堂】</p>	<p>○世界的なフィギュアメーカーである(株)海 洋堂との連携により、廃校となった小学校を 活用し「海洋堂ホビー館四万十」を整備、開 館(H23.7月)。目標の15,000人を開館後約1 か月半で達成するなど、交流人口の拡大や 雇用の創出など、中山間地域の活性化に繋 げた。</p> <p>入場者数：76,720人(平成24年3月31日現 在)</p> <p>○ホビー館オープンをきっかけにJRとタイ アップ。全国初のミュージアム列車ホビー トレインの運行を開始し予土線の利用向上に 繋げた。</p> <p>○町内道の駅の入込客数や売上増加にも 貢献</p> <p>○地元の観光客の受入体制づくりが進み、 直販所のオープンや食の提供、体験教室を 実施した。</p> <p>◆リピーターの確保や来館者の滞在時間延 長の仕掛けづくり</p> <p>◆ホビー館来館者を町内へ誘導するため地 元商店街や道の駅との連携、各種イベント に対する効果的な広報の仕組みづくり</p>	<p>・企画展の開催：2回</p> <p>・愛媛県方面へのPR活動：1回</p> <p>・集客イベントの実施：2回</p> <p>・シャトルバス運行の実施：GW期間中5日間</p>
<p>33 四万十町観光交流促進事業</p> <p>《四万十町》</p> <p>高速道路の延伸や海洋堂ホビー館の整備を踏ま え、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がつく りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとと もに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進める ことで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。</p> <p>【四万十町、(社)四万十町観光協会、四万十町商 工会】</p>	<p>○高速道路延伸などに向けた受入対応、人 材育成、プログラム造成、各種イベントの強 化、案内看板の設置、ものづくりと食を生か したまちづくりなどに取り組んだ。</p> <p>観光ガイドの養成実績21名(H23年目標値 20名)</p> <p>◆情報発信強化：メディア、パンフ、HP等を 活用した観光・イベント情報、周遊ルートの 提供及び3つの道の駅が連携した情報の提 供</p>	<p>・まちづくり検討委員会の発足</p> <p>・町歩きマップ講座開催(6/25)</p> <p>・町内PRパンフレット作成、道の駅やホビー館等配布</p> <p>・JRへのPRチラシ配布</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・ゆすはら出会いの会歴史民俗資料館でガイド開始(4/1～6/30)847人 ・主要宿泊施設宿泊者数:1,809人(6月末実績) (対前年比:111.5%)		<b>【指標】</b> 宿泊者数 (H22:6,485人) <b>【目標(H27)】</b> 8,500人  <b>【指標】</b> 施設利用者数 (H22:82,299人) <b>【目標(H27)】</b> 97,500人
・主要宿泊施設宿泊者数:1,878人(6月末実績) (対前年比:100.4%) ・アンテナショップ職員の津野町内の観光研修の実施(5/15-3人、5/16-3人参加)		<b>【指標】</b> 主要宿泊施設年間宿泊数 (H19:8,925人) (H22:9,616人)  <b>【目標(H27)】</b> 9,800人
○H24年度入館者数(6月末):16,291人		<b>【指標】</b> ①ホビー館の1年間入場客数 (H23:72,196人)2月29日時点 ②常勤雇用者数(H22:3人)  <b>【目標(H27)】</b> ①50,000人 ②3人
		<b>【指標】</b> 施設等利用者数 (H22:80万人)  <b>【目標】</b> 90万人